



泉 愉美 議員

まもなくキャンプシーズン♪  
アウトドアを楽しみます

**問** 町有住宅の活用と住宅不足解消の考えは

**町長** 全町的な住宅計画策定に取り組む

**問** 農業実習生の受入住宅  
時代の変化もあり、農業実習の際の住み込みはお互いに気が休まらない。自宅以外の宿泊先が求められているが、町に短期入居できる住宅はあるか。

**答** 住み込みが原則だが実習生用途で入居可能な住宅3戸分を確保している。

**問** 派遣労働者の短期入居  
遠方から農業従事のための派遣労働者を受け入れたり、法人化して従業員を雇う農家が增えることが予想されるが、短期で入居できる住宅が必要ではないか。

**答** 農業者宅に住み込みで働くことを想定しており、労働者の短期的な住宅確保の相談は少ないのが実態だ。

**問** 耐用年数が過ぎた町有住宅をリフォームして用途変更し、利用できないか。

**答** 30年が過ぎれば用途変更はできるが、長寿命化して長く使いたい。ハウスを町で整備し、貸し出しできないか。

**答** 農業分野ではきたみらい農協が広域的な受入施策をしている。短期入居住宅のニーズが多くなれば町としても検討したい。

**問** 若者世帯の住宅不足  
結婚したが入れる住宅が町になく、北見市から通うケースが多く見られるが、住宅不足を解消する方策は。



多用途に使えるような移動式トレーラーハウス

**問** 単身者向け住宅の整備  
単身者は公営住宅に入らず、町の単身者用住宅は入居時に年齢制限がある。今後、単身者は増え年齢も上がるが、町の既存の住宅をリフォームして「改良住宅」として単身者の住まいを確保する必要性があるのでは。

**答** 空き家活用定住対策や町営住宅の入居要件を緩和し、若者世帯が入居しやすくしている。

**答** 単身者向けの住宅は不足していると捉えている。民間資本のパートナーに補助し、建設を促進する方法もある。

**問** 町営住宅は目的や対象者が決められているが、農業実習生でも派遣労働者や田舎ぐらし体験でも、地域おこし協力隊員でも単身者でも「誰でもどうぞ」の住宅はできないのか。

**答** 公的な住宅は現代の状況にマッチしなくなってきた。あらゆるニーズにどう応えていくか問われている。

**問** さまざまな住宅の形があるが、環境を整えなければ高齢者も若者も町に住まなくなる。住宅もないのに人口減少を嘆くのではなく、物理的なものを用意する必要があるのでは。

**答** 令和3年度、今後の町営住宅整備のほか、若者世帯はもとより、移住希望者への住宅環境整備の方策、民間賃貸住宅や空き家対策などを含めた全町的な住宅政策のあり方や、今後の具体的な事業の実施方法などを定める計画策定に取り組んで行く。

